

使役2 宣弼の直言

本文の構成

1 神宗の前で天変地異の原因は人の行いではないと言った者がいた。

2 公は嘆き、「天子が天を畏れなければ国は乱れる。姦臣はこのように天子をむしむ。私は国を救わねばならぬ。」と。

3 公は、すぐに過去の書物等を引用して上申し、その者の言葉は誤りだと明示した。

本文の主旨 天子は天しか畏れるものがない。その天子が天を畏れなくなれば国家の危機だと富弼は書状を提出した。

本文の解析 II 主旨 II 指示語 II 学習した句法

1 神宗 即位、召赴闕、公既至、未見有於上、前一言災異皆天數、非人事得失所致者。公聞之嘆曰、人君所畏惟天。若不畏天、何事不可為者。去亂亡無幾矣。此必姦臣欲進邪說、先導上以無所畏、使輔弘諫争之。臣無所復施其力。此治乱之機也。吾不可不以不速救、即上書数千言、雜引春秋・洪範及古今伝記、人情物理、以明其決不然者。及古今伝記、人情物理、以明其決不然者。及古今伝記、人情物理、以明其決不然者。

書き下し文 1 神宗位に即き、召して闕に赴かしむ。 2 公既に至り、未だ見えず。 3 上の前に於いて災異は皆天數なり、人事の得失の致す所に非ずと言ふ者有り。 4 公之を聞いて嘆じて曰はく、「人君の畏るる所は惟だ天のみ。 5 若し天を畏れずんば、何事か為すべからざる者あらん。 6 乱亡を去ること幾も無からん。 7 此れ必ず姦臣邪説を進めんと欲し、故に先づ上を導くに畏るる所無きを以てし、輔弘諫争の臣をして、復た其の力を施す所無からしむるなり。 8 此れ治乱の機なり。 9 吾以て速やかに救はざるべからず。」と。 10 即ち上書すること数千言、春秋・洪範及び古今の伝記、人情、物理を雜へ引きて、以て其の決して然らざる者を明らかにす。

出典 「宋名臣言行録」朱熹(南宋) 二十四卷。宋代の名臣の言行を集め、臣下としての振る舞いの手本としたもの。作者の朱熹が南宋の儒学を大成してまとめた「朱子学」は、日本でも重んじられた。

解答

句法の確認

- 1 聊か故人に命じて之を書かしめ
2 a 遣 遣 人 問 其 名 姓
b 遣 遣 人 問 其 名 姓
3 a カハシム b セシム

読解問題

Table with 2 columns: 場面 (神宗 災異 公(富弼)) and 問 (問一 a まま 問一 b いくばく 問二 神宗位に即き、召して闕に赴かしむ。 問四 不速救 問五 もし天を畏敬しなければ、何を行えないことがあるだろうか。 問六 忠実な臣下が、天子の誤りを正すこと。 問七 ア 問八 災異皆く失所致 問九 ウ)

解法の視点

使役を暗示する動詞

- 1 聊 命 命 故 人 書 之
2 命 A B Aに命じてBさせる

下の動詞「書」に「シム」と送って使役で読む。

書き下し文

使役を暗示する動詞

召・招 (よびよせて) させる (つかわして) させる (よびよせて) させる (つかわして) させる (よびよせて) させる (つかわして) させる (よびよせて) させる (つかわして) させる

2 a 解 遣 遣 人 問 其 名 姓

使役を暗示する動詞「遣ハス」と読む場合「人」「遣」の送り仮名に注意。

b 解 遣 遣 人 問 其 名 姓

文脈から読み取る使役

3 a 分 分 其 騎 以 為 四 隊 四 嚮

文の中の主語と、実際に動作をする人が異なることに注意する。「四 嚮」は、「騎」の動作。

b 四 岳 擧 擧 舜 撰 撰 行 天 下 事

主語：堯帝・「撰」行は舜の動作。 堯帝が「舜」に「政治の代行をさせる」

*それぞれカ行四段活用「向かふ」、サ変活用「撰行す」の未然形+シム。